

## 新・葦生檜山風土記：高知県香美市域120人から聞いた村の歴史・生活・民俗

楠瀬，慶太  
九州大学大学院比較社会学府日本社会文化専攻：修士課程

服部，英雄  
九州大学大学院比較社会文化研究院：教授

<https://doi.org/10.15017/1516062>

---

出版情報：2008-03-25. 九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室  
バージョン：  
権利関係：

## あとがき

高校時代、歴史の本を読みあさり、休日には自転車で史跡を回る歴史好きだった私が九州大学文学部に入学してすぐに最高の出会いがありました。師匠服部英雄先生との出会いです。日本各地の農村を歩き、見、多くの人達から話を聞く服部先生の歴史学に、自分の志す歴史学の理想像を見つけました。

大学二年の専攻配属では日本史学には進学せず、考古学の研究室へ進みました。考古学へ進んだ理由は、考古学なら自分の好きなフィールドワークができるだろうという安易な考えでした。農村の出身だった私は当初、荘園研究を志しましたが、結局、卒論でやったのは正反対の中世都市研究、しかも土器研究というシンプルな研究でした。

大学院は、学部の時からゼミに行っていた服部先生のいる六本松の比較社会文化学府に進学しました。博多の周辺を対象として待望の荘園研究をやろうと志して大学院に入った私でしたが、先生から故郷高知の大忍庄を研究してみないかと薦められました。この年に私の生まれた土佐山田町と大忍庄の中心である物部村が合併したということもあって、調査することに決めました。何の調査計画もないまま最初の三日間先生について物部で現地調査。この三日間で方向性が決まり、何とかその後の調査につなげることができました。その後、馴れない車で一人山道を走り、集落を訪ねる日々が続きました。中山間地域の現状に驚く反面、親切で魅力的な村の人達、次から次へと出てくる新しい地名と面白い話の数々に夢中になって調査しました。一部、調査できなかった地域もありましたが、旧物部村域のほとんどを調査でき、未知の多くの地名や歴史、民俗を聞き取り、記録できたのは大きな収穫です。

これだけの成果が得られたのは何より、現地の人達のご協力のおかげです。聞き取り調査は全てアポ無しであったにもかかわらず、仕事中や忙しいなか丁寧に話をしてくれた現地の人達の温かさに何よりの感謝の意を述べたいと思います。また、調査の基礎となる地図の手配等で多大な便宜を図っていただいた香美市役所の中山泰弘氏、調査に協力してくれた親友生田篤君にも感謝したいと思います。また、忙しい中、原稿に目を通しててくれた岩成俊策先輩、後輩の田北健三君、数々の助言を下さった関隆造さん、本当にありがとうございました。そして最後に、すばらしい調査フィールドを与えてくださり、報告書刊行を薦めてくれた服部先生のご好意に感謝したいと思います。

なお本書は、2008年度笹川科学研究助成（研究課題「中・近世農村景観の復元的研究—土佐国董生・檜山地域を中心として—」）による成果の一部です。

平成20年2月18日

楠瀬 慶太